

G-1 最近の学生・生徒の生活意識および行動(第1報)―消費行動について―  
果立柏原高 ○岩下富子 果立藤山産高 中西美知  
梅花短大 宮脇政子

目的 家庭科教育を担当する私共は、今日までに、衣、食、住、保育、余暇生活等の分野で調査研究し、時代と共に変化する生活の実態を教材に供してきた。近來、青少年の生活行動については問題があり、それらは家庭科教育の教材にも関係深いことを痛感する。今回、特に学生、生徒の生活意識及び行動の実態を知り、その変化の特質と要因を認め、今後の教育に資したい。本報は、彼等の消費行動ととりあつる。

### 方法 実態調査

1. 調査地域 京阪神地区、丹波地区
2. 対象 上記地区の学生、生徒 3,180名(高校男女生徒、女子短大生)
3. 時期 昭和53年1月～2月
4. 方法 質問紙法による
5. 項目 このかひの額と用途 購買動機 消費態度 節約志向と実際

結果 調査項目を集計した結果、大體として同じ傾向がみられる。しかしその内容を分析すれば、都市と農村の居住地区別に、高校生と短大生、全日制高校と定時制高校の校種別に、男女別等に差がある。また、学生生徒の行動には「甘え」の精神構造に起因するものがみられ、その行動背景には、親の姿勢がうかがえる。